



宮司プレス 第百六十五号

彦島八幡宮 宮司ニユース
 発行者 彦島八幡宮
 宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年 二月 二十日

◇宮司の柴田です。 立春を過ぎたとはい申せ
 寒気厳しき折節です。 過日の十七日は、祈

年祭（きねんさい、としごいのまつり）
 を御奉仕申し上げます。 祈年祭は、
 春祭りです。 春の枕詞（まくらこと
 ば）は、「冬ごもり」でありまして、冬
 は、この祈年祭、春祭りのために、なる
 べくつつましく、静かに暮らしつつ、力
 を蓄（たくわ）える季節なのです。 し
 かしながら、春祭りのはずなのに、小雪
 まじりの残寒厳しきなかでの祭典となり
 ました。 左の写真のとおりです。



◇大自然を大切に、人と人とのつなが
 りを大切にしながら、前向きに人生を楽

しむ、これが、神社神道の信仰の三本柱
 です。 来る十一月二十三日の新嘗祭

（にいなめさい）が、氏神祭の御加護
 （ごかご）により、きつと必ず、豊年満
 作（ほうねんまんさく）、人々が笑み栄
 えて迎えることを信じて、予（あらか
 じ）めお祝いをした祭典が、この祈年祭
 です。 少し難（むずか）しく申し上げ
 ると、予祝（よしゆく）というお祭りな
 のです。 その予祝を現実のものとする
 ためには、まず、「五風十雨（ごふうう
 じゅうう）」という、五日に一回穏やか
 な風が吹いて、十日に一回静かな雨が降
 るという理想的な天候でなくてはなりま
 せん。 まさに、人の力の及ばない、大
 自然の恵みが必要不可欠です。 そし
 て、「プロセス（いとなみの手順、過
 程）」を省略（しょうりやく）することが
 なく、手間暇（てまひま）かけることが
 重要です。 人々との協力協調が大事に
 なってきます。 そして、なにより、立
 派な農作物を神前にお供えをするという

大目標を達成するために、努力をおこた
 ってはなりません。 「人事を尽くして
 天命を待つ」、「大難（だいなん）は小
 難（しょうなん） 小難（しょうなん）
 は無難（ぶなん）」にと、神様が守って
 くださることを信じる、「神信心（かみ
 しんじん）」という希望を失わない、前
 向きな気持ちが大切です。
 ◇新型コロナ感染症の拡大から、早一年が経
 （た）ちました。 ワクチンが、多くの人が
 期待していたよりも早く実用化され、わが国
 でも接種が始まりました。 朗報ですが、流
 行が、恒常的（こうじょうてき）に社会に存
 在する、エンデミックになりそうだと危惧
 （きぐ）する有識者（ゆうしきしゃ）もおら
 れるようです。 「冬来たりしば 春遠から
 ず」、「休眠打破」ではありますけれども、ま
 だまだ、「冬ごもり」の日々が続きそうです。
 ◇「こころを持つて生まれてきた これほど
 尊いものがあるうか そしてこの心を悪く使
 う これほど相すまぬことがあるうか 一番
 大事なことは このこころに 花を咲かせる
 こと」、これは、詩人の坂村真民（さかむら
 しんみん）さんの詩です。 神社神道の信仰
 の三本柱を大切に、日々の暮らしが、予祝と
 なるように、私共の心に、「神信心」という、
 ちいさな花を咲かせたいものです。

◇一月の祭典行事報告

▼歳旦祭 *一月一日

◆彦島八幡宮

◆田の首八幡宮

◆福浦金刀比羅宮

◆貴布禰神社

▼新年限定後朱印の頒布を始めました

▼書初め *一月二日

※干支にまつわる書初めをしました

▼元始祭 *一月三日

▼会社関係新年祭

*一月四日～五日

▼境内一面雪化粧 *一月八日～九日

▼田の首八幡宮どんど焼き

*一月十日

▼六連島八幡宮歳旦祭 戸別(こべつ)祓(はらい)

*一月十一日

▼月次祭 *一月十五日

▼どんど焼き

*一月十六日



▼朝粥会

*一月二十一日



※七草粥でした!

◇二月祭典行事報告

▼節分祭

節分祭追儺式



▼節分祭の豆は配布しました!



▼節分祭限定御朱印



*氏子青年会「維蘇志会」の原和人氏に描写していただいた当宮創祀者 河野通次が「災」と「厄」を檜で突き破る模様と臨時巫女の女子高生がデザインしたお多福と鬼を背景にしています

*二月二十八日まで頒布します

▼花手水 *二月一日～七日

